

第18回 世界遺産検定 マイスター試験 講評 および 学習方法

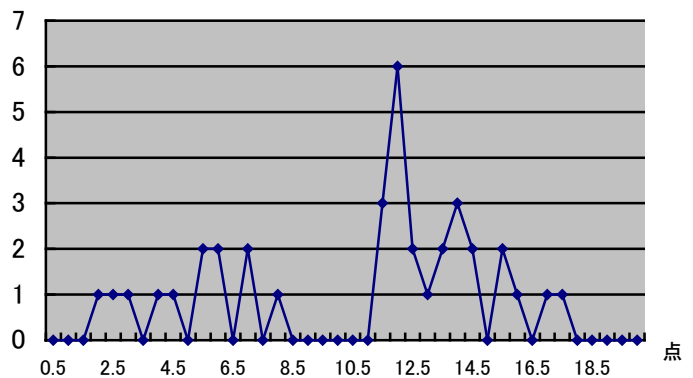
1. 実施概要 2. 認定点と分布 3. 問題 4. 総評 5. 各問の短評と学習法

1. 実施概要

検 定 日：2014年12月14日（日）
検定会場：東京・大阪
検定時間：120分
解答形式：論述形式（記述）
申込人数：41名
受検人数：36名
認定者数：17名（認定率47.2%）

2. 認定点と分布

認定点：12点（20点満点）
最高点：17.5点
最低点：2点
分 布：



3. 問 題

- 1 次の語句を簡潔に説明しなさい。
1. ICCROM
2. 完全性
3. 登録基準
- 2 世界遺産条約について、次の語句をすべて使って、400字以内で説明しなさい。なお、解答中の次の語句の使用箇所には下線を引きなさい。
世界遺産委員会 教育・広報 国際社会
世界遺産条約履行のための作業指針
- 3 2014年の世界遺産委員会では、世界遺産委員会の決議と諮問機関の勧告との違いが注目を集めた。世界遺産委員会と諮問機関の、それぞれの立場・考え方を考察した上で、諮問機関から登録延期勧告をされながらも今回初めて世界遺産保有国となったミャンマー連邦共和国の『ピュー族の古代都市群』を例に、1,200字以内で論じなさい。

4. 総 評

1 は「ICCROM」と「完全性」で書きにくさがあったようだが、どの受検者も比較的書けていた。2 は「国際社会」の使い方に難しさがあったのか、世界遺産を国際社会の協力の下で守ってゆくという意義が書けていない人も多かった。3 は受検者の想定外の出題だったのか解答に大きな差があった。解答欄がほとんど空欄の受検者も少なからずあり、予想しなかった問題に対して自分が書けることの中でどのように対処するのか、という解答技術の差も出たのかもしれない。全体としては、よく準備できていた受検者とそうでなかった受検者との差がこれまで以上に大きかったように感じた。論述試験では文字数も重要である。

5. 各問の短評と学習法

1

短評：それぞれの語句を約 50 文字以内で説明する問題。ICCROM と完全性で点数が分かれたが、比較的どの受検者も解けていた。多くの重要なキーワードを含むものは、文字数に限りのある中で、どのキーワードを入れるのかよく考えなければならない。

学習法：このように少ない文字数で要約する場合、ポイントとなる語句（ICCROM であれば「諮問機関のひとつ」や「文化遺産保護の技術支援、専門家の養成、助言、広報活動」など）をはずさないようにする。学習の際には、**それぞれの語句の最重要ポイントがどこであるかを考えながら、キーワードを正しくつかむのが重要**である。

2

短評：指定語句を用いて重要なキーワードを説明する問題。この問題は、指定語句を使用しながら「世界遺産条約」を説明することが重要で、世界遺産条約に関連するその他の内容を書いても大きな加点にはならない。また年号や加盟国数などを書く際には正しい情報でなければ減点となるので注意が必要である。今回は「国際社会」の扱いに苦慮した受検者が多く見受けられた。また文字数が規定数に満たない解答も例年よりも多かった。ここまで大きく点数を落とすと、認定は難しくなる。

学習法：書く前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。「世界遺産条約」を説明するのに必要なキーワードを書き出し、それを組み替えながら全体のプロットを考える。問題中の**使用指定語句は、どのような解答が求められているかのヒント**であるといえる。学習の段階では、重要語句のキーワードやポイントを抜き出しておくとうい。また「世界遺産条約」の意義や目的、採択の背景なども理解し、それを限られた文字数と指定語句の中に加えられるよう、自分なりのまとめなおしが必要である。そのためには、**文章ではなく語句で覚えて**おき、問題に合わせて語句を組み合わせるようにするのが重要である。また、指定文字数の 8 割を書かないと減点の対象となる。

3

短評：世界遺産に関するテーマについて、独自の意見を論理的に論ずる問題。今年の世界遺産委員会に関する問題で、あまり有名ではないミャンマーの遺産を取り上げるよう指示があったためか、難しいと感じた受検者が多かったように見受けられた。グローバル・ストラテジーなどに言及しながら、世界遺産委員会と諮問機関双方の考え方について考察し、自身の意見を述べることでできている解答は少なかった。またほとんど解答欄を埋められていない受検者も少なからずおり、どのような問題が出題されても対応できるような柔軟さも求められている。

学習法：1,200 字というかなり長い論述問題の場合は、書き始める前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。その時に、**序論・本論・結論のスタイル**にするのか、まず**結論を書いてから後で説明するスタイル**にするのか決め、全体を見ながら、それに沿うようにキーワードなどの箇条書きでプロットを作る。それに肉付けする形で、書き上げてゆく。世界遺産条約から大きく外れた出題はないので、ある程度共通して使える要素も準備しておくとうい。論述問題では「**正解**」というものはない。いかに自分の意見を論理的に述べられるかが高得点の鍵となる。当然、**自分の考えを述べる時には、思い込みではない正確な情報で根拠を示す**必要がある。文字数指定があるので、最低でもその 8 割は必ず書くようにする。